

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察		
1	適応指導教室運営	不登校状態にある児童生徒に対し、カウンセリングや小集団活動を通し、自主性や社会性を高め学校復帰を支援する「若草教室」の運営に努める。	・名称 「若草教室」 ・場所 町保健センター内 ・開設 月曜日から金曜日 9:00～12:00 (変更有り) ・内容 自主学习・課題学習(自分にあつた教科学習)、体験的学習、軽運動やゲーム、その他(清掃、反省等)	実績成果 小学生入級者 人 0 中学生入級者 人 4 不登校状況:小学校4名 中学校9名 (若草教室入級者除く)	事業費 国 県 支 出 金 千円 起 債 千円 そ の 他 千円 一 般 千円 2,579 2,628 合 計 千円 2,579 2,628	4	4	3	3	14	(B)	A	子どもに寄り添い、登校できるよう支援を行った結果、若草教室に通級しながら、式典などの行事や部活などで学校へ行けるようになった生徒もいた。 なお、中3の生徒2名は、指導員・相談員に将来の夢を、話すことで、自信をもてるようになり、それぞれ目標に向かい、自分なりに考え進路を決めることができ、卒業した。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・家庭、学校との密な連携が必要。 ・不登校児童生徒へのサポートが必要。	
2	理科振興	小学生の理科教育は、創造性の伸長や自主性が求められるが、理科離れが進んでいることから、ふくしま森の科学体験センター(ムシテックワールド)で理科教室を開催し、理科に対する興味・関心を高める。	ムシテックワールドにおいて、一小・二小の3～6年生を対象に理科教室を開催 ・日時及び対象 ①11月10日 9:00～11:30 小学3年生対象 ②11月20日 9:00～11:30 小学4年生対象 ③11月25日 9:00～11:30 小学5年生対象 ④11月27日 9:00～11:30 小学6年生対象	実績成果 理科教室参加者 人 481 455 内容(テーマ) ダンシングドール、放射線を調べよう、月の満ち欠け早見盤、虹色万華鏡、牛乳パック望遠鏡等	事業費 国 県 支 出 金 千円 起 債 千円 そ の 他 千円 一 般 千円 607 708 合 計 千円 607 708	4	4	3	3	14	(A)	A	新学習指導要領の中では、体験型の理科実験や観察が大変重要視されている。数多くの実験設備や観察環境が整っている「ムシテックワールド」を利用して理科教室を開催することで、児童は学校では得られない貴重な実験や観察を行い、真剣に指導員の説明を聞き、楽しみながら体験を積むことができた。 この体験で、子どもたちは理科に関して興味・関心をもつことができ、今後も楽しいと思い、興味を持てるような体験を実施していく必要がある。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・学校では実施できない実験・体験は重要。 ・児童のニーズにあつた体験を検討。 ・ムシテックワールドの活用により興味を持たせることが大切。	
3	学力向上支援事業	児童生徒の基礎学力向上に取り組むため全国一斉実施の「全国学力・学習状況調査」、「ふくしま学力調査」及び町独自の「標準学力調査」を実施、児童生徒の学力経年変化や課題傾向を分析し、学習指導に活用する。 また、教職員のレベルアップ事業として、教職員の研修会等を実施し、資質の向上を図る。	◎全国学力・学習状況調査 小6、中3を対象に実施 (教科:国語、算数・数学、英語、質問紙(アンケート)) ◎ふくしま学力調査 小4～6、中1～2を対象に実施 (教科:国語、算数・数学、質問紙(アンケート)) ◎町標準学力調査 ・対象 小2～5、中1～3 ・教科 小学校(国語、算数) 中学校(国語、数学、英語)	実績成果 全国学力・学習状況調査 人 266 0 ふくしま学力調査 人 584 0 標準学力調査 人 956 822 教職員レベルアップ研修 回 1 0 全国学力・学習状況調査及びふくしま学力調査は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。	事業費 国 県 支 出 金 千円 起 債 千円 そ の 他 千円 一 般 千円 1,209 1,170 合 計 千円 1,209 1,170	4	4	3	3	14	(B)	A	新学習指導要領による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、町の学力向上会議の際に、分析結果を基にした各校課題の共通理解を図り、学校での指導内容・方法の工夫や改善に取り組んだ。 昨年度はコロナ感染拡大防止のため実施できなかった全国学力調査については、授業で問題を解いた。教職員も問題を解いて、指導内容に生かした。 R3年度は、例年通り実施。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・児童生徒の苦手分野や問題点を確認。 ・教職員の指導工夫が必要。 ・コロナ禍での学力状況を把握することで、学校休校時の学力について確認することで貴重な資料になる。	

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見	
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察			
4	語学指導 外国青年 招致事業	中学生の英語の語学力向上を目的に語学指導助手を1名招致し、鏡石中学校へ派遣するとともに、国際交流活動として、幼稚園や保育所で幼児英語教育を実施する。 また、児童の国際感覚を養うため小学校に外国人講師を派遣し、日常生活の中から外国語に親しむ機会を創設する。	(中学校) 外国語授業・会話の補助、外国語能力コンテストへの協力、外国語教員に対する現職教育への補助等 (地域での国際交流活動) 地域での国際交流活動の一環として、鏡石幼稚園や鏡石保育所を訪問して、幼児向け英語教育を実施。 (一小・二小) 小学校等における英語会話の補助、外国語教育用の教材作成の補助、小学校等における国際理解関係事業の補助、特別活動等への協力、教員研修活動等の補助等 一 週4日勤務 二 週1日勤務	実績成果	保育所 外国語活動	回	21	19	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	小学校では令和2年度より、3・4年生で外国語活動、5・6年生で英語科の授業が完全実施された。また、中学校では、主体的に英語でコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指している。 令和2年度は、小・中9年間の系統性を目指した英語力の一層の充実を図るために、ALTを効果的に活用した授業実践に取り組んだ。 また、英語に親しみながら、英語でのコミュニケーションを図れるよう、授業の展開を図った。 また、小学校前から英語に触れる機会として、保育所・幼稚園で外国語教育を実施。 なお、令和3年度は外国人講師を直接雇用し、更なる国際化教育に取り組む。	重点化 (重点化)	・事業の評価は重点化。 ・国際化が進む中で、英語力は必要。 ・幼少期から外国人講師とのふれあいは、英語力向上に必要。 ・直接雇用による新たな活用・継続的指導が必要。 ・小学校から中学校へのつながる指導が必要。
					幼稚園 外国語活動	回	21	17									
				事業費	国 県 支 出 金	千円											
					起	債	千円										
					そ の 他	千円											
					一 般	千円	8,208	8,554									
					合 計	千円	8,208	8,554									
5	教育支援 事業	特色ある学校づくりを推進するため、授業内容により外部の専門的知識や技術を持つ講師を活用し、担任とチームティーチング方式で授業を展開し、児童生徒の興味や関心を喚起する授業を支援する。	・外部講師による支援事業 主な内容 (一 小) 脳トレ、ダブルダッチ、読み聞かせ、音楽教室 (二 小) 水泳指導、助産師講話(幼稚園) よさこい指導、音楽指導	実績成果	一 小 支 援 事 業	回	13	6	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	各学校において、専門的な知識や技術を持つ外部講師を招き、児童生徒が興味・関心をもって、意欲的に学べるよう授業を実施した。 今後も、より多くの専門的分野に興味・関心を持って、「学ぶことが楽しい」と感じ、意欲的に学べるよう外部講師を有効に活用していきたい。 なお、中学校はコロナによる臨時休業で授業時数を調整したため0回でした。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・専門的知識や技術を持つ講師の活用は有効。 ・外部講師の授業は、専門的知識であるため子ども達が意欲的であり、活用していくことが必要。 ・学校での領域は限界がある中で、専門的知識や技能を学べるため今後も継続していくことが必要。
					二 小 支 援 事 業	回	1	4									
				事業費	国 県 支 出 金	千円											
					起	債	千円										
					そ の 他	千円											
					一 般	千円	170	190									
					合 計	千円	170	190									

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見															
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察																	
6	学校図書整備事業	小学校・中学校の児童生徒用図書と図書室の整備充実を図る。	・令和2年度整備 (一)小童話・図鑑等145冊 (二)小童話・図鑑等111冊 (中学)文学・専門書等117冊 (幼稚園)絵本等58冊 ・町図書館の活用 移動図書館の利用実績 一 小 262冊(延べ244人) 二 小 289冊(延べ150人) 中学校 20冊(延べ12人) コロナ感染拡大防止により回数 が大幅に減少となったため、利用 が減少した。	実績成果	一 小 図書	千円	292	308	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	令和元年度からの事業。児童・生徒の主眼的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させるために、また、読書は、子どもたちの創造性を育むとともに、知的活動やコミュニケーションの基盤となる言語に関する能力の育成を図るために非常に重要であることから、子どもたちが本に触れ親しめるような、図書を選定し今後も計画的に整備していく必要がある。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・本の楽しさを気付かせることが大切。 ・読書環境を計画的に整備することが必要。 ・児童生徒への読書活動の充実を図ることが必要。 ・時代にあった図書整備を行い興味を持たせることが必要。														
					二 小 図書	千円	188	190										中学校 図書	千円	250	250	幼稚園 図書	千円	99	100	国 県 支 出 金	千円			起 債	千円
7	情報化教育推進事業	パソコン教室は児童生徒が一人一台利用できる環境になり、教職員にも一人一台配備されている。また、インターネットへ接続できるようになったことからその有効活用を図る。さらに、平成21年度整備の学校ICTを活用した授業の展開を図る。	・一 小 パソコン端末82台(タブレット端末7台)、プリンター、複合機等のリース及び教育ネット接続 ・二 小 パソコン端末58台(タブレット端末7台)、プリンター、複合機等のリース及び教育ネット接続 ・中学校 パソコン端末80台(タブレット端末7台)、プリンター、複合機等のリース及び教育ネット接続 ・電子黒板3台(小中学校各1台)、デジタルテレビ58台(一 小 28台、二 小 11台、中学校16台、幼稚園2台、公民館1台)の整備(H21年度) GIGAスクール構想事業 ・高速大容量の通信ネットワークの整備 ・1人1台のiPad導入(1,193台) 一 小: 580台(児童540、職員40) 二 小: 180台(児童163、職員17) 中学: 401台(生徒369、職員32) 予備: 32台	実績成果	一 小 パソコン授業等	時数	974	1,046	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	ICT(情報通信技術)環境の整備として、一人一台のタブレットの整備を行い、同時に使用しても滞ることなく、快適に通信機能を利用できるよう、高速大容量通信ネットワーク整備工事を各学校で行った。小学校低学年から、情報通信教育に触れ親しむことで、新しい時代の教育に必要な創造性を育む教育の実現を目指す。また、お互いの考えをリアルタイムで共有し、意見交換したりして、協同的な学びを行うことができる。さらに、パソコン教室でもパソコンを利用して授業ができるよう授業環境は継続している。	重点化 (重点化)	・事業の評価は重点化。 ・一人一台のタブレットの活用を積極的に推進。 ・情報化社会が進み、タブレット活用は重要。 ・適正なソフト(アプリ)を導入し活用することが必要。 ・情報化社会に対応できるよう、タブレットの操作などを体験し学習へ活用することが大切。														
					二 小 パソコン授業等	時数	933	958										中学パソコン授業等	時数	537	321	国 県 支 出 金	千円		52,955	起 債	千円	21,000	そ の 他	千円	43,960
				事業費	学校ICT活用状況 デジタル教科書授業、実物投影機による音楽等指導、書画カメラによるノート指導等、教材DVD授業、インターネット学習、進路学習等																										
					リース期間 ・一 小 及び 二 小 H31.3.1～R6.2.28 教育用 ・中学校 H28.1.1～R2.12.31 教育用 (リースアップ後は無償譲渡して継続利用) H31.2.1～R6.1.31 教職員用 GIGAスクール構想事業(町立小中学校) 高速大容量通信ネットワーク工事 一人1台の iPad導入																										

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見	
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察			
8	通学バス乗車券購入補助事業	第二小学校通学バス乗車券購入費として、旧二小学区1～3年生へ補助する。(通学バス乗車券購入補助金交付要綱)	・旧二小学区1～3年生の児童のうち必要とする児童については、保護者に通学バス定期券を購入いただき、実績に基づいてバス乗車券購入費を学校に補助、学校から実績額を保護者へ交付している。(平成22年度から通学バス定期券の学校による一括購入から、保護者購入による実績額交付方法へ変更)	実績成果	通学バス定期券購入者数	人	14	10	2 (2)	2 (2)	2 (3)	2 (3)	8 (10)	C (C)	旧二小学区の児童が減少しており、対象者が令和2年度は10名のみであった。建設当時のピーク時からすると1割程度にとどまっている状況であり、対象児童の保護者が自ら購入となったため、必要な児童のみ購入していることから、購入者数及び補助金額も減少傾向にある。事業開始から約40年が経過していることもあり、対象児童の通学距離や他地区のバス通学児童との公平性も考慮し、事業内容や今後の方向性を検討する必要がある。	改善 (改善)	・事業の評価は改善。 ・一小と二小の公平性を考慮した事業内容の検討が必要。 ・事業開始時と現在の状況を考慮して改善していくことが必要。 ・廃止時期を見極め示していくことも必要。
				事業費	国県支出金	千円											
9	特別支援教育事業	心身に障がいのある児童生徒を支援するため小学校・中学校へ特別支援教育支援員を配置する。	・一小 4名配置 ・二小 3名配置 ・中学校 2名配置 ・鏡石幼稚園 3名配置	実績成果	一小特別支援教育支援員	人	4	4	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	集団生活や学校生活に困り感や不安を感じている心身に障がいのある子どもに授業や生活面の支援を行うため、特別支援教育支援員を配置している。支援員が丁寧に関わることで、不安を和らげ、自らできることを増やし、また、疎外感を感じないように、楽しく学校生活を送るために必要な事業である。教育支援員の資質の向上を図るため、合同で研修会を実施している。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・子どもの状況に応じ個々に対応できるよう特別支援員の配置は必要。 ・支援を要する子どもにとって学校生活を楽しく送れるよう支援員の配置は必要。 ・個々に応じた丁寧な指導が必要。
				事業費	国県支出金	千円											
10	放射線教育体験学習事業	放射線に関する知識を習得するとともに、東日本大震災を振り返ることで、環境回復や復興に向けた取組みについて学習するため、中学1年生を対象に、体験学習を実施する。	福島県環境創造センター交流館(コミュニティ福島)で体験学習を実施。実施日 9月15日 参加人数 135名 内容: 展示(放射線ロボ、環境創造ロボ) 放射能測定体験 環境創造シアター(360° 全方位のスクリーン上映)	実績成果	体験学習参加者	人	109	135	4	3	3	3	13	B	東日本大震災が記憶にない生徒も多くいる中で、震災を振り返り、福島第一原発事故による目に見えない放射能とはどんなものなのか知識を深め、福島での環境回復や復興に向けた取組を学ぶ。また、身の回りのものから放射線が出ていることを確認し、自然放射線の存在について学ぶための体験学習事業である。今後も、福島県で起きた原発事故の放射能について知識を習得するめ必要な事業であるため継続していきたい。	継続	・事業の評価は継続。 ・放射能に関する知識を得るため必要。 ・原発事故を風化させないため必要。 ・今後、震災や原発について語られ知ること大切。 ・放射能について正しく理解するためにも継続。
				事業費	国県支出金	千円											
					起債	千円											
					その他	千円											
					一般	千円	393	471									
					合計	千円	393	471									

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見								
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察										
11	中学生各種検定補助事業	中学生の学習意欲を高め、学力向上につなげていくために、各種検定補助事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 対象検定は、英語、数学、漢字 各種検定の受験料の一部を補助。 1人につき年度中2,000円を上限 	事業成果	英語検定	人	50	100	4	3	3	3	13	B	(B)	平成30年度から実施している事業で、1人で複数の検定を受験している生徒もいる。受験者が、令和1より増加しているが、まだ、生徒全体の4割程度であるので、補助金の活用について、中学校と連携して積極的に受験の推奨を進めていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 事業の評価は継続。 中学校と連携して、検定を受講する生徒が増える環境づくりが必要。 多数の受験を推奨し継続して進めることが必要。 							
				事業費	延べ人数	人	151	200										実人数	人	110	142	起債	千円	
12	元気キッズサポーター派遣事業	子どもの運動に対する関心や意欲を高めながら体力向上を図るため、体育の授業等を支援する「元気キッズサポーター」を小学校に派遣する。	<ul style="list-style-type: none"> 委託先 NPO法人かがみいしスポーツクラブ 委託内容 体育の授業や特別クラブでの先生方の指導の支援(1回当たり1~2名派遣) 	事業成果	一 小派遣	回	30	30	4	3	3	3	13	B	(A)	平成30年度まで県補助事業で、令和元年度より町単独事業として実施している。かがみいしSCから派遣されるスタッフが、学校と連携して体育の授業等で指導をサポートしており、児童の体力の向上が期待できる。令和3年度は実施回数を増やし、さらなる体力の向上を目指していく。	<ul style="list-style-type: none"> 事業の評価は継続。 専門的スタッフにより、体育の興味と体力の向上が期待できる。 子どもの弱点をカバーできるような重点的な取組が必要。 運動嫌い(苦手)な子どもへ運動の楽しさを気付かせるにも必要。 							
				事業費	二 小派遣	回	11	10										合計	回	41	40	起債	千円	
13	学校司書配置事業	学校図書館の円滑な管理運営と利用促進を図るため、学校司書を小中学校に配置する。	<ul style="list-style-type: none"> 町会計年度任用職員の学校司書1名を、一小・二小・中学校交替で配置 	事業成果	学校司書	人	1	1	4	3	3	3	13	B	(B)	子どもたちの創造力やコミュニケーション能力などを高めるためには読書は欠かせないものであり、図書館司書を配置することで、学校図書館利用促進や本に触れる機会を増やすための、本の情報提供や整理、展示を行っており、今後も引き続き事業を継続していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 事業の評価は継続。 本に触れ親しむ機会を増やしていくことが必要。 図書離れにブレーキをかけられるような運営が期待できる。 読書タイムなどの工夫が必要。 							
				事業費	週当たり配置														一 小1日、二小1日、中学校3日			起債	千円	

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察		
14	小中学校 市民プール 利用事業	一 小の学校プール施設の老朽化に伴い、市民プール「すいすい」を利用して水泳授業を実施していましたが、令和2年度からは二小・中学校においても実施する。また、夏休み期間は、児童の体力向上を図るために、小学性を対象に市民プールの利用を5回まで無料とする。	・市民プール利用促進 ①水泳授業(一小、二小、中学校) 大型バスで送迎 ②夏休み(小学生) 児童1人5回まで無料	水泳授業	回	9	5	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	令和元年度から実施している。町内の小学校の水泳授業は、天候に左右されず、水質の良い環境で実施できている。 令和2年度は、中学校も予定していたが、コロナウイルス感染拡大により授業の中止となった。小学校においては時数の減となった。また、夏休み期間は、中止。 今年度は、全ての小中学校で感染防止対策を行い水泳授業を実施し、夏休みも小学生を対象として実施する。	継続 (継続)	・事業の評価は継続。 ・天候に左右されないため、計画的に推進。 ・各学校の時間のやりくりなどの観点から、授業時間のまとめ取りなど創意工夫が必要。
				夏休み利用(延べ人数)	人	1,431	0									
				事業費	国 県 支 出 金	千円										
					起 債	千円										
					そ の 他	千円										
					一 般	千円	1,275	336								
					合 計	千円	1,275	336								
15	幼稚園 子育て支援 事業	共働き家庭の増加や就労形態の変化により、保育が必要な幼児が増加しているため、子育て支援として、3歳児保育及び預かり保育(一時預かり・常時預かり)を行う	預かり保育と3歳児保育を実施するため、講師2名を雇用し、3歳児受け入れ体制を整備するとともに、午後の常時預かりに対応する。 3歳児保育 18人 預かり保育 常時預かり: 24人 臨時預かり: 延べ151人 1回につき500円	3歳児保育	人	19	18	4	3	3	3	13	B	年々増える共働き家庭や核家族など、家庭の環境の変化により、保育が必要な幼児が増え、3歳児から幼稚園教育、また、幼稚園教育終了後の午後の預かり、長期休業中の預かりなどの預かり保育の充実を図っている。 常時預かりのみならず、緊急的に必要となった園児についても、預かれるように講師を雇用し取り組んでいる。 今後も子育てをしやすい環境づくり、家庭支援のため、継続して行っていく必要がある。	継続	・事業の評価は継続。 ・子育て家庭の家庭支援のため必要。 ・預かりについては、預けやすい環境をつくることが必要 ・共働きの家庭増加により、今後も子育て支援の充実を図る必要。
				臨時預かり(延べ)	人	162	151									
				事業費	国 県 支 出 金	千円	2,753	3,729								
					起 債	千円										
					そ の 他	千円	1,720	75								
					一 般	千円		967								
					合 計	千円	4,473	4,771								
16	幼稚園 食育推進 奨励金 支給事業	幼稚園児の保護者に対して、食育推進奨励金を支給することにより、経済的負担の軽減、園児の健全育成、食の向上を図る	令和元年10月から、幼稚園の保護者に対し、幼稚園給食費一人: 4,500円を支給する	一般分	人	42	33	4	4	3	3	14	A	子育て世帯の経済的負担の軽減のため、幼稚園に通う園児の給食費について一人、月4,500円を支給している。 今後も経済的負担軽減のため、継続して行っていきたい。	継続	・事業の評価は継続。 ・子育て世帯の経済的負担軽減のためにも必要。 ・食育の分野からも継続していくことが大切。 ・幼稚園のみではなく、小学校低学年までの拡充が求められる。
				副食免除分	人	31	32									
					合計		73	65								
				事業費	国 県 支 出 金	千円	837									
					起 債	千円										
					そ の 他	千円										
					一 般	千円	1,188	3,510								
					合 計	千円	2,025	3,510								

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見	
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察			
17	育英資金貸付事業	本町に住所を有する学生に経済的理由により修学困難と認められる者に対して、育英資金を貸与し、教育の機会均等を図る。	<p>・貸付条件 町内に引き続き2年以上住所があり、かつ、学術優秀、品行方正、身体強健の者で、経済的理由により修学困難と認められる者。</p> <p>・貸与額 月額6万円以内 (大学修学6年以上) 月額5万円以内(大学)～ 月額1万5千円以内(高校)</p> <p>入学準備金 30万円～70万円以内 ※令和2年度に条例改正</p>	実績成果	貸付者(大学)	人	0	1	4 (4)	3 (3)	3 (3)	2 (2)	12 (12)	B (B)	<p>国等の給付型奨学金等の制度充実により、町の制度利用の需要がない状況である。</p> <p>なお、令和2年度中の審査会には1名の希望があった。この1名については令和3年度から貸付を行う。また、町の貸付条件の見直しを行い条例改正を行った。</p>	継続 (改善)	<p>・事業の評価は継続。</p> <p>・条件の緩和など利用しやすい制度への検討が必要。</p> <p>・奨学金給付型の検討。</p>
				貸付者(短大)	人	0	0										
				貸付者(専門学校)	人	0	0										
				貸付者(高校)	人	0	0										
				(継続貸付者:1名 償還者18名)													
				事業費	国 県 支 出 金	千円											
					起 債	千円											
					そ の 他	千円	4,905	4,667									
					一 般	千円											
					合 計	千円	4,905	4,667									

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見	
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察			
18	家庭教育学級事業	家庭教育は、人間形成の基礎を作る上できわめて重要であることから、家庭における父母の役割についての学習や親同士の交流の機会を提供し、家庭の教育力の向上と活性化を図るため開設する。	委託機関及び教育委員会が選定した家庭教育関係講師及び指導者により、家庭の教育向上に関する講演等を実施。 ・クリスマス演奏会(鏡石保育所)	実績成果	事業数 件		3	1	4	3	3	3	13	B	B	本事業は家庭教育力の向上が重要な課題であると位置付け実施した。 幼・保や小学生の家庭は家庭教育の基板世代であり、家庭教育力の向上に必要な事業であるため、各幼児教育施設を中心に今後も継続して実施していく必要がある。	・事業の評価は継続。 ・家庭教育力の向上のため重要かつ必要な事業。 ・保護者の参加促進の工夫。 ・講習会を通じた保護者の家庭教育力の向上を希望。
				事業費	起債	千円											
19	青少年健全育成事業	広く町民の総意を結集し、国・県及び町の施策に呼応して、青少年の健全な育成を図るため実施する。	青少年がその誇りと責任についての自覚を高めるための諸活動、健全な青少年活動を助長、奨励するための諸活動、青少年の非行及び事故防止のための諸活動等を実施する。 ・TPT活動支援(少年推進員委嘱) ・岩農生とのなりすまし詐欺防止メッセージカード作成(TPT小学生) ・校内防犯啓発キャンペーン(TPT中学生) ・少年の主張県大会への作文募集(中学校全校生徒、県推薦3作品) ・被害防止街頭広報活動用メッセージ音声作成(TPT小・中学生)	実績成果	TPT少年推進員委嘱者数 人		34	36	4	3	3	3	13	B	B	小中学生が自ら非行防止活動をするTPTの活動は、須賀川警察署との連携を図り推進しており、毎年内容の充実・参加児童の増加が見られ、一定の成果が見られる。 また、町民の総意を結集し「青少年の健全育成」を図るという点においては、関係諸団体との連携のもと事業を実施することができた。	・事業の評価は継続。 ・イベント以外に継続的な活動となる内容の検討。 ・行政と関係団体との連携強化。 ・青少年自身の活動参加による自覚促進は効果的。
				事業費	起債	千円											
20	学校支援地域本部事業	地域の人々が個々の特性を活かして教育活動を支援することで、地域住民の学習成果活用機会拡充及び地域教育力・地域コミュニティの再生を図り、地域が学校を支援する組織体制の構築を図る。	学校支援事業の効果的かつ円滑な取組を推進するために学校支援地域本部「学校応援団」を設置し、小・中学校事業及び幼稚園への支援を実施。 ・地域コーディネーター2名配置 ・学校の要請にもとづく支援 ・ボランティアの募集、研修会の実施 ・事業の普及啓発・広報(活動チラシ、ホームページ、SNS)	実績成果	支援回数 回		155	21	4	4	3	3	14	A	A	コーディネーターを中心に積極的に事業を推進しており、事業をとおして学校と地域の交流や地域住民の生きがいづくりなどの成果を得ている。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少したが、平成20年度から継続している中で、支援に対する学校の理解、信頼、感謝が深まっており、ここ数年は回数も高いまま推移してきた。 今後も体制の充実や協力団体との連携強化を図りながら、一層の事業推進を図りたい。	・事業の評価は継続。 ・若い世代のボランティア登録の推進。 ・成果が見られる事業のため継続して推進が必要。 ・地域住民の得意分野を生かした積極的な支援希望。
				事業費	起債	千円	1,282	903									
					その他	千円											
					一般	千円		137									
					合計	千円	1,419	903									

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見								
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察										
21	花いっぱい運動事業	各種団体との協力提携により、鏡石町内の各所に花を植え、心豊かな潤いのある町づくりと連帯感あふれる地域社会の形成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を設置し、行政区・学校及び協力団体の協力を得て、町内各所で花の一斉定植を行い花の管理を行う。(マリーゴールド、ペゴニア、サルビア・ブルーサルビア、ジニア) ・各行政区、関係団体、公共施設での定植作業 ・表彰(各行政区) ・植栽活動団体への助成 ・研修会(事例発表・講話) 	実績成果	定植事業	千円	661	824	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	地域住民が目的を持って参集し活動するこの事業は、コミュニティの形成において一定の成果は得られている。 定植方法も地区の環境特性に合わせ、プランター方式から露地の花壇を中心とした植栽方式に移行するなど工夫を行った。屋外活動のため新型コロナウイルス感染症の影響も比較的少ないため、今後も行政区や各種団体と協力提携しながら実施していく。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の評価は継続 ・花壇整備など地域の協力による景観保全の維持。 ・地域交流や環境美化として有用であるため花苗等を工夫し継続。 ・各種団体への参加協力を推進し継続。 							
					苗	数本	23,610	11,430										事業費		国県支出金	千円			起債
22	生涯学習の振興(いきいき学級)	学級生相互の話し合いや、種々の学習・講座などとおして、健康を保ち生活を楽しめ、変貌する生活環境に即して常に新しい知識・技術を習得し、自ら生きがいを見出すことを目的に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡石町生涯学習文化協会との連携事業。 ・年間プログラムにより各種学習を行う。 	実績成果	学級生数	人	64	—	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	A (A)	高齢者が生きがいを見つけ、精神的な若さと健康が保持できるような事業として継続していく必要があるが、受講者の高齢化も進んでいるため、年齢差などを踏まえた学習計画の編成など実情に沿った運営を行っている。 コロナ禍の影響下でのリスク回避も考慮しながら、高齢者が安全・安心に楽しく集える生きがいの場として、創意工夫しながら進めていく。	(継続)	※中止事業評価のため評価対象外項目 ・参考意見無し							
					出席率	%	84.0	—										事業費		国県支出金	千円			起債
23	生涯学習の振興(ジョイフルライフ講座)	最も向学心旺盛な年代の女性を対象に体験学習や社会参加を通して、生活の向上や自己研鑽を図り、豊かな人間性を養う。女性としての資質や能力を高め、明るく健全な家庭づくりや地域づくりに役立つことを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡石町生涯学習文化協会との連携事業。 ・年6回のプログラムにより、各種学習を行う。「からだと頭の体操教室」「タイトルラフト教室」「カルトナーージュ教室」「お正月の花のアレンジメント」「パレンティンに作る簡単料理」「リース作り教室」 	実績成果	受講者数	人	86	66	4 (4)	3 (3)	3 (3)	3 (3)	13 (13)	B (B)	継続受講者も多く、人気の講座であり、募集に対する申し込みも多い。 受講者への感想アンケートでもニーズが確認されていることから、今後も広く女性向けの魅力あるプログラムづくりを行い事業を展開していく。	継続 (継続)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の評価は継続。 ・人気の講座であり地域活動に繋げる工夫が必要。 ・地域づくりの指導者など人材育成のため継続が必要。 ・新規受講者の参加しやすい環境が大切。 							
					出席率	%	71.0	84.6										事業費		国県支出金	千円			起債

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見									
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察											
24	生涯学習の振興(大人の講座「男性専科」)	日頃社会活動に消極的になりがちな男性に対して、種々の学習などの場を提供し、精神的にも肉体的に個明るく生き生きとした心身共に健康で民主的な社会の一員となることを目指す。	・鏡石町生涯学習文化協会との連携事業。 ・年5回のプログラムにより、各種学習を行う。 「交流レクリエーション」「料理教室」「移動学習」「フラワーアレンジメント教室」「手作りコンニャク教室」	実績成果	受講者数	人	22	18	4	3	3	3	13	B	(B)	平成25年度から男性向けの講座として開設、全5回で開催。普段、公民館講座への参加が少ない男性を対象に自発的・自主的な学習機会を提供するために開講。受講内容の詳細は申込後に受講生の意見やニーズを取り入れながら組み立てた。他講座との協働開催など男性参加者の活動活性化も行っていく。	継続(継続)	・事業の評価は継続。 ・他の活動参加の動機作りとなる内容を検討。 ・男性向けの講座は貴重で継続が必要。 ・参加を増やすためのPRを継続的に実施。							
				事業費	出席率	%	95.7	72.0											※新型コロナウイルス感染症の影響により9月開講	国県支出金	千円			起債	千円
25	社会教育推進事業(青少年教室「アドベンチャークラブ」)	子どもたちの社会性を養うことを目的に集団生活をとおりて様々な体験により、子どもたちの興味、関心の幅を広げるとともに多くの自然に触れることにより環境に対する意識の向上を図るため実施する。	・年5回のプログラムにより、体験活動を通して子どもの健やかな成長と興味・関心の幅を広げるために実施。 「尾瀬環境学習(座学)」「秋の自然観察(移動学習)」「親子料理教室」「スキー教室・冬の自然観察※申込受付後、新型コロナウイルスの県内感染拡大状況により中止」「お楽しみ講座(ポツチャ体験)」	実績成果	受講者数	人	102	40	4	4	3	3	14	A	(A)	青少年の社会教育の場として、集団活動を通しての様々な体験により、子どもたちの興味関心の幅を広げることに役立った。また、青少年の社会教育の場であることから、活動に対する参加者の満足度も重要だが、あいさつ等の基本的マナーが身につくような講座運営に努めた。	継続(継続)	・事業の評価は継続。 ・学ぶことの大切さを体感する取組の継続。 ・体験学習は重要で、通年参加のための工夫が必要。 ・社会のルールなど活動を通して楽しく学習が可能。							
				事業費	出席率	%	96.2	90.9											※新型コロナウイルス感染症の影響により9月開講	国県支出金	千円			起債	千円
26	社会教育推進事業(まちづくり講座)	個性あるまちづくりの実現に向け、まちづくりに積極的に参加する地域のリーダー的な人材を育成することを目的に実施する。	・花画美塾(ガーデニング講座)年7回のプログラムでガーデニング講座によるまちづくりの手法を学んだ。 「事業検討会」「スタンディングバスケット作成」「寄せ植え教室」「花壇整備」「多肉植物教室」「植替え検討」「クリスマスリース作成」	実績成果	ガーデニング講座受講者数	人	50	42	4	3	3	3	13	B	(B)	平成28年度の開講以降、花や緑のシンボルづくりを通じ積極的に活動し、目標を持って参加して頂いている講座で、ガーデニング技術の向上と活動成果の図書館駐車場の花壇整備を行ってきた。花画美塾は成果の確認を踏まえ、5年目の令和2年度で講座終了となったが、参加者が地域のリーダーになることを期待し、今後もまちづくり参画意識の醸成につながる講座を実施していく。	継続(継続)	・事業の評価は継続。 ・目標が明確で参加者同士の意識も共有出来る事業。 ・長期的な人材作りのための内容の工夫。 ・町づくりに繋がるよう取り組みを継続。							
				事業費	出席率	%	68.0	86.0											国県支出金	千円			起債	千円	

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見		
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察				
27	図書館事業	社会教育の中心的施設であるという認識のもと、幼児から高齢者までを対象にした自主事業を行い、地域住民に親しまれ、利用しやすい図書館の運営を図る。	<p>・図書等の貸出(町立小・中学校への移動図書館や町立幼稚園への団体貸出)、小学校でのお話し会の開催、図書・視聴覚資料等の計画的な購入。</p> <p>・主催事業として造形教室の開催(全4回)や小中学校図書室との読書達成プレゼントコラボ企画の実施。</p> <p>・子育て支援事業との連携(ブックスタート事業)</p> <p>・コロナ対策臨時交付金事業での読書応援(蔵書購入充実化)事業。</p>	実績成果	入館者数	人	69,194	25,306	4	4	3	3	14	A	A	<p>新型コロナウイルスの影響による臨時休館や田んぼアートの中止で、昨年度の利用状況は大きく減少した。</p> <p>運営管理では安心安全な館内利用のため、臨時交付金事業を活用し、換気対策や検温対策を行い、さらには在宅機会の増加に対する読書応援のため実用書を追加購入して蔵書充実化を図った。</p> <p>今後も質の向上を図り、より町民に親しまれ利用しやすい図書館運営に努めていく。</p>	継続(継続)	<p>・事業の評価は継続。</p> <p>・町の情報発信施設としての事業展開。</p> <p>・新刊購入や読み聞かせ事業等の継続的な実施。</p> <p>・利用促進のための様々な企画。</p>
				事業費	国 県 支 出 金	千円		1,499										
28	鏡石 駅伝・ロードレース大会	唱歌「牧場の朝」のまち鏡石で、「走る」ことにより、健康づくりを推進し、体力の維持向上を目指し、町民が気軽に参加できる大会とするとともに、広く参加者を求め親睦を深めるため実施する。	<p>実行委員会を設置し、鳥見山陸上競技場において、駅伝競走の部及びロードレースの部18部門の大会を開催する。</p> <p>・町内小中学生は参加費無料で実施</p>	実績成果	ロードレースの部参加者	人	-	-	4	3	3	3	13	B	<p>平成26年度から町内小学校の学校行事として小学生全員参加となり、参加者が大幅増となり、平成29年度から駅伝部門に3名で参加できる新部門を新設するなど、参加しやすい大会作りを行っている。</p> <p>災害やコロナ禍により2年連続で大会を開催できていないため、今年度は感染拡大防止を十分考慮した開催方法を検討し実施したいと考えている。</p> <p>今後も運営方法の改善を図りながらスムーズで効率的な実施に努める。</p>	継続	<p>※中止事業のため評価対象外項目</p> <p>・歴史ある大会の継続。</p>	
				事業費	国 県 支 出 金	千円												起 債

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見	
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察			
29	子ども会善行対抗スポーツ大会	町内における子ども会育成会相互の連絡調整を密にすることにより、子どもの健全育成についての共通理解を深め、あわせて家庭教育並びに社会教育(青少年教育)の振興に資する。	子ども会育成会連絡協議会と連携し次の事業を行う。 ・子ども会対抗親善球技大会	球技大会参加者	人	159	-										
				球技大会参加チーム	チーム	21	-										
				※新型コロナウイルス感染症の影響により、各区育成会(単位会)への球技大会実施協議のためのアンケート調査を行った結果、夏休み期間短縮や集合交流による感染リスクを考慮し開催中止とした。													
				事業費													
				国 県 支 出 金	千円			(4)	(3)	(3)	(3)	(13)	(B)				
				起 債	千円												
				そ の 他	千円												
				一 般	千円	191	-										
				合 計	千円	191	-										
30	総合型地域スポーツクラブ支援事業(NPO法人在法者がみいしスポーツクラブ)	あらゆる年代の町民が個々のライフスタイルに応じて気軽にスポーツを楽しむことができる環境を整備し、健康の維持・増進を目指す。さらに、スポーツの一層の振興と普及を図ることで、青少年の健全育成や地域コミュニティの再生、豊かな高齢化社会の実現など、活力ある地域社会の確立に資することを目的とする。	・スクール活動(14団体) ・サークル活動(15種目) ・健康教室(5種目) ・各種教室 「ポッチャ教室」「サッカー体験教室」「稲穂ウォーキング」「秋の稲刈り体験」「ロコモ体操教室」「パークヨガin鳥見山公園」「テーピング教室」「しめ縄作り体験」 「初詣ウォーク」「心のエクササイズ」「Go美拾いウォーク」など運動系や文科系の各種教室を実施 ・コミュニケーション促進事業(6事業42回) 「大人の山歩き」、「B食ウォーク」「ふくしま駅伝を歩こう」など会員相互の交流を図る。 ・理事会(11回)	会 員 数	人	683	661										
				教 室 ・ イ ベ ン ト	種	63	61										
				※新型コロナウイルス感染症の影響による施設の臨時休館など各種制限の関係もあり、6月から感染防止対策を講じクラブ事業の活動を順次開始した。 ・スポーツ教室の開催 ・ボランティア活動、イベントなど町事業への連携と協力													
				事業費													
				国 県 支 出 金	千円		1,000	(4)	(4)	(3)	(3)	(14)	(A)				
				起 債	千円												
				そ の 他	千円												
				一 般	千円	3,400	3,400										
				合 計	千円	3,400	4,400										
				※新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金での事業継続支援金として1,000千円を交付。													

令和2年度 鏡石町教育行政点検評価(事務事業評価)表

()は令和元年度の評価

No	事業名	事務事業の目的	事務事業の内容	実績成果・事業費				事業の評価					総合評価		事業の方向性	点検評価委員意見	
				区分	単位	R1年度実績	R2年度実績	必要性	有効性	効率性	達成度	合計点	評価	判定説明・考察			
31	体育施設管理運営事業	鳥見山陸上競技場内の管理事務所を中心に総合的な調整と維持管理を行い、町内社会体育施設の有効活用を図る。 また指定管理者による管理運営を行い、民間事業者のノウハウを活用したサービス向上と経費削減を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 運営施設(直営管理、一部委託) <ul style="list-style-type: none"> 鳥見山陸上競技場 鳥見山多目的広場 鳥見山体育館 鳥見山野球場 鳥見山テニスコート 鏡石町構造改善センター 運営施設(指定管理) <ul style="list-style-type: none"> 町民プールすいすい 	施設数	箇所	7	7	4	3	3	3	13	B	鳥見山公園は町のメイン施設であり、町内外から多くの利用があるため公園内のスポーツ関連施設の維持・管理について適正な維持管理を行い、合理的な運営と利便性の向上を図る必要がある。 すでに指定管理制度を導入している施設については指定管理者との連携を図りながら引き続き適正な運営に努め、その他の施設への制度活用についても調査研究が必要と考えている。 なお鳥見山公園内には建設から25年以上が経過し老朽化した施設もあるため、改修については策定した公園施設長寿命化計画に沿って公園管理担当課と協議し進めていく。	継続	<ul style="list-style-type: none"> 事業の評価は継続 老朽化に対する中長期的な計画が必要。 所管施設の総合的な維持管理は合理的。 有効活用のため民間事業者を活用した経営も必要。 利用しやすく安全に使用できる施設運営管理の継続。 	
				利用者数	人	182,011	128,401										※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年4月7日から5月31日まで臨時休館により施設利用を休止。各種制限を設けて利用再開し、7月1日から段階的に制限を緩和。 ※県緊急対策により令和3年1月14日から2月15日まで夜間の時短縮措置実施。 ※福島県沖地震発生による影響のため、2月14日臨時休館(プールは2月15日まで)
				事業費	国 県 支 出 金	千円		1,000									
					起 債	千円											
					そ の 他	千円	11,909	10,431									
					一 般	千円	73,740	72,918									
					合 計	千円	85,649	84,349									
				※指定管理者に対し、新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金での事業継続支援金として1,000千円を交付。													